

# 成田市教育委員会会議事録

平成28年10月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成28年10月27日 開会：午後2時00分 閉会：午後3時26分

会 場 成田市役所6階中会議室

## 教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	福 田 理 絵
委 員	佐 藤 勲

## 出席職員

教育総務部長	伊 藤 和 信
生涯学習部長	秋 山 雅 和
教育総務課長	鬼 澤 正 春
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	江 邨 一 男
教育指導課長	中 條 専 一
学校給食センター所長	後 藤 文 郎
生涯スポーツ課長	大 矢 知 良
公民館長	神 崎 良 浩
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	池 田 桂 士
生涯学習課副参事	木 川 邦 夫
保育課長	岡 田 康 裕
教育総務課課長補佐 (書記)	鈴 木 浩 和

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言
2. 署名委員の指名 高木久美子委員、佐藤勲委員
3. 前回議事録の承認
4. 教育長報告

#### 主催事業等

○9月30日 平成28年度第2回総合教育会議について

今年度第2回目の総合教育会議だった。これは全ての委員の皆様のご出席をいただいているので、詳細については報告を省略させていただきたい。なお、この日は、生徒指導関係、部活動関係を含め、活発な意見交換ができたものと思う。

○10月 8日 第5回成田スポーツフェスティバルについて

各委員の皆様にご参加いただいているので、特段説明の必要もないと思うが、今年は天候が不安定で午後からは大雨になるなど、大変だったが「8の字跳び」を残して、ほとんどの競技が終了できたので良かったと思う。途中、雨が降ってきて大会の続行が危ぶまれ、会場を体育館に移してはどうかなど、様々な声があったが、あの状況で会場を変更すれば、さらに大きな混乱が予想されると感じ会場変更はしなかった。今後の開催については、後に実行委員会等で協議することとなるだろうが、競技途中の会場変更は行わないと明記しておいた方が良かった。また、雨天時は体育館で開催としているが、3,000人から4,000人もの市民の方々が参加しているので、本当に可能かどうか、今後の課題とすべきではないかと感じた次第である。

#### その他

○9月30日 第5回成田市校長会議について

新学期最初の校長会議だったので、出席し最近の子どもをめぐる問題から、校長自らが、部下職員にあるべき姿をきちんと伝えられるよう、その手本となる行動、指導を行うよう、強く要請したところである。というのも、子どもに関する、数々の困難な問題は、その多くが子どもが一番近くで接する教員が、深い愛情と思いやりをもって接していれば、大きな問題に発展せずに済んでいたと思われる内容がほとんどだからである。学校はこれからが正念場である。気持ちを引き締め、子どもにしっかり向き合って育ててほしいというような内容で指導

した。

○10月 2日 成田市国際市民フェスティバル2016・子ども会まつりについて

今年は素晴らしい天候に恵まれ、大勢の大人や子ども、そして国際色豊かな方たちの参加があり、楽しく過ごせた一日となった。佐藤委員、福田委員にもお越しいただいたが、当日は、雨のため、延期となっていた市内私立幼稚園や保育園の運動会が行われており、その分、小さなお子さんたちの参加は少なかったかもしれない。それでも、毎年この行事に参加して下さる方々の熱意で、盛り上がりを感じられた。

○10月 3～6日 平成28年度第1回成田市職員選考委員会（面接試験）について

一般行政上級職58名、同じく学芸員、土木、建築の各部門、各2名を対象にした面接試験を行った。今年是最終試験である個人面接受験者が昨年度よりも少なく、一人ひとりに対し、時間的余裕を持って面接をさせていただくことができた。それぞれ、様々な理由で公務員を志望し、志も高く、優秀な人材が多いと感じたが、人として大切なコミュニケーション能力、臨機応変に対応する柔軟性、健康で、前向きな向上心と謙虚な姿勢をもった人材を選ぶとなると、なかなか難しい。どう点数を付けたらいいものか迷うような場面もあったが、将来性を考慮し、選考基準に基づいて慎重に審査させていただいた。既に合格者には通知が発送されているが、市役所に入所しても、今の気持ちを大切に、たくましく成長してほしいと願っている。

○10月12日 「県立学校改革推進プラン」に係る意見等の聴取について

県教委の、県立学校改革推進課の職員2名による「意見聴取」という形で訪問を受けた。千葉県では、これからの公立高等学校のあるべき姿を模索する中で、様々な地方の考え方を聞いて回り、今後の施策に反映させていきたいとのことで、およそ30分間だが、私の立場からの意見を述べさせていただいた。成田市には公立高校が4校、私立高校が1校あり、それぞれ、各校が個性を生かした取り組みを行っている。その中で、成田西陵高校と下総高校はともに実業高校で、県としては将来的にどう考えていくのか、そのあたりの構想もお聞きしたいところだったが、まだこれからの課題として捉えている段階で今すぐどうこう言う問題ではないようであった。

○10月15日 千葉県立成田西陵高等学校創立百十周年記念式典について

成田西陵高校の創立110周年記念行事に参加した。成田西陵高校は、明治39年八生村立八生実業補習学校として開校、その後、印旛郡立八生農学校、そして、県立八生農学校、県立成田農業高等学校、県立成田園芸高等学校、そして、現在の県立成田西陵高等学校として、長い歴史を刻んできた学校である。最近10年では、野依科学奨励賞や、千葉県教育奨励賞、読売教育賞最優秀賞など、数々の表彰を受けた清水先生が中心になって指導されてきた地域生物

部の活動、農業クラブ千葉県研究発表大会での最優秀賞受賞など、輝かしい成績はもちろんのこと、ここ数年、私も出席している卒業式で感じる、卒業生の成長した姿など、学校が総力を挙げて生徒の指導にあたっている様子等、長い歴史とともに成長している姿を感じ取ることができた。記念講演では、本校卒業生である、株式会社「白妙」の取締役会長の高橋弘光氏のお話も聞けて、生徒にとっても記念すべき良い一日になったものと思う。この高橋氏は、かつてテレビチャンピオンという番組で、8年連続日本一になった菓子職人で、八千代市に本店を構える、和菓子界のカリスマと言われている方である。

#### ○10月15日 成田市民短歌大会について

成田西陵高等学校の創立110周年記念行事のあと、成田公民館で行われていた市民文化祭の一つ、市民短歌会にお邪魔した。途中からの参加だったので、ちょうど、出展された33の句について、それぞれ、参加者の講評をいただいているところだった。今年の市長賞は、「自在なる 夢を新たにふくらませ 八十歳のスタートを切る」という句が選定された。なお、教育長賞は、「息子の部屋に 机の一つ残されて 窓に秋風吹き抜けてゆく」だった。昨年もそうだったが、句を詠んだだけで、高齢の方が読まれた句だな、と、感じられる。世代交代はなかなか難しい。

#### ○10月15日 「2016 NARITA花火大会 in 印旛沼 11th」について

今年も盛大に花火大会が開催された。天気が良かったせいか、昨年以上に多くの人出があったのではないだろうか、指定された駐車場まで行き着くのにかなりの時間がかかってしまった。今年の花火は、また一味工夫された内容で、なかなか素晴らしいものだと感じた。それにしても、渋滞の中、近くの車のナンバーを見ていたら、他県のナンバーが多いのに驚いた。この方たちが皆花火を見るためにお出でになったわけではないのだろうが、普段、あまり見ることのないナンバーも多く、もしかすると、花火見物客かなと思った次第である。帰りがけ、渋滞を避けようと思い、ニュータウンの外周道路を通ったのだが、ここにも道路の両端には、ぎっしりと車が駐車し、大変な混雑状況であった。

#### ○10月18日 平成28年度第1回成田市まち・ひと・しごと創生本部会議について

成田市総合戦略の数値目標及びKPI進捗状況について、事務局から報告があった。KPIとは、Key Performance Indicatorの略で、日本語では、重要あるいは、主要業績評価指標と呼ばれるもので、事業の達成目標に向かってプロセスが適切に実行されているかどうかを計測する役割を持っているもの。教育委員会関係では、総合戦略の中の「子どもに関する希望が叶う理想の子育てのまち」という基本目標に対して、生涯学習課が、「放課後子ども教室登録者数」と「子どもの居場所づくり参加者数」を取り上げ、その数値目標をあげて進行管理している。

こうした様々な事業について、目標値に対して現状はどういう進み具合か、ということ随時点検評価して、事業改善を図ることをねらいとしている。適切な数値目標が見つからず、こういう進行管理に適さない事業はたくさんある。特に教育に関するものはそういった傾向が強い。無理に数値化しようとするれば、本来の目的にそぐわなくなってしまう場合もある。企業の営業や事業実績を上げるための進行管理をそのまま行政、特に教育に当てはめることには、無理があるようにも感じる。ただ、目標を掲げ、少しでもそれに近づくために、チーム一丸となって取り組むことは、どんな職場でも大切なことである。この総合戦略に取り上げられていない部門の事業についても、それぞれ、独自の評価指標をつくって事業実績を上げられるよう努力することが望まれる。

#### ○10月19日 2016成田市青少年音楽祭について

今年の参加校は19校だった。成田高等学校附属小学校と成田中学校を除くと、市内の公立小学校の参加は17校ということになる。小学校8校が不参加というのは、ややさびしい気もするが、それぞれの学校の事情があるのだろう、強制できるものではないので仕方ないと思う。不参加の学校の多くが小規模校という状況であるが、小規模校だからこそ、こうした音楽祭に参加する意味があるのではないかと思う。音楽発表の技術的な内容はともかく、とにかく皆、真剣に歌ったり演奏したり、その思いは十分感じられた一日だった。観客の中には、涙を流しながら子ども達の演奏を聴いていた方もいたようだ。それぞれの学校、それぞれの子ども家庭に、それぞれの理由がある。懸命に取り組む子どもの姿は何にも増して清々しく、感動的である。

#### ○10月19日 下総高等学校エコマイレージチャレンジ2016全国大会優勝報告会について

昨年度に続き、今年度もHondaエコマイレージチャレンジ2016第36回全国大会で連覇を成し遂げた下総高校自動車部の生徒と、指導された顧問の先生、校長先生が優勝報告においでになった。下総高校の出場したグループⅡ（高校生クラス）には、136台が出場し、そのうち完走した車は77台だったとのこと。この中で、見事にワンツーフィニッシュを決めたのが下総高校自動車部だった。優勝を飾ったマシンは、市役所玄関前に展示してあるので、きつとご覧になったものと思うが、無駄を一切省き、空気抵抗と、摩擦損失を極限まで減らした、美しい仕上がりのボディは、毎年自動車部の生徒たちが自作するとのこと。顧問の先生は基本的に手伝わず、生徒が自ら製作するそうで、そうした活動を通じて生徒の成長を促しているとのことだった。出場した生徒一人ひとりが感想を述べてくれたが、特に印象的だったのは、「日本一になるのはレースだけでなく、部活動そのもの」といった話が心に響いた。さすがに

高校生として大きな成長を遂げている。とにかく純粋で、先輩が後輩に技術や、部活動の精神を、自らの活動を通じて懸命に伝えている様子がよくわかった。日本一の部活動を目指しているというこの自動車部が、まさに輝いて見えた。指導されている先生方の情熱と根気と努力も、また素晴らしいと感じた。

○10月20日 千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問について（津富浦小学校）

津富浦小学校で指導室訪問があった。昨年度は様々な学級で大変な状況を抱えていた学校だったが、今年度は4月から良いスタートが切られていて、どの学級も落ち着いた授業展開がなされていた。子ども達の中には、油断すると思わぬ方向に飛び出しそうな子も見られたが、先生方がきちんと指導されていて、学校としての組織的な取組が感じられるようになっていた。校長先生はじめ、各先生方のご努力に感謝したい。

○10月21日 韓国仁川広域市中区サッカー訪問団表敬訪問について

韓国仁川広域市中区のサッカー訪問団が来日し、市役所を表敬訪問された。仁川市とは友好姉妹都市を締結しており、スポーツを通じた交流が続いている。表敬訪問された方は、朴明成中区副区庁長他、広報体育振興室長等、広報体育振興室の行政職員3名、中区サッカー連合会幹部職員6名の計10名である。2泊3日の短い日程だが、皆さん大変友好的な方ばかりで楽しく歓談することができた。

○10月22日 第15回日韓民間親善サッカー大会について

来日した仁川広域市中区サッカー選手団は、大人43名。それぞれ、壮年の部、青年の部に分かれて、本市のサッカーチームと親善試合を行った。試合前に開会行事を行ったが、7人の挨拶があり、時間は50分かかった。国際親善試合なので、日本語と韓国語にそれぞれ通訳するという時間もあり、仕方ない面もあるが、その間選手団は立ったままであった。幸い良い天気だったので良かったが、もう少し何とかならないものだろうかと感じた。サッカーの試合は、40歳以上という壮年の部においても、なかなか見ごたえがあり、楽しく見学できた。

○10月24日 平成28年度第1回教育長・教育委員研修会について

台風の影響で延期になっていた、千葉県の教育長・教育委員研修会に参加した。各委員さんもお出席されたので、私からは、感想を述べるにとどめたい。全体会は、「新しい教育委員会の取組における現状と課題について～教育委員会の役割について考える～」と題してパネルディスカッション形式で行われたが、教育委員会制度の改定以後、教育委員長と教育長を一本化したために、本市では、これまで教育委員会会議の議長を委員長が行っていたものを、教育長である私が行うようになったが、県では、「教育長は必要と認めるときは、議事の進行をその指名する出席委員に行わせることができる」、というお話しお聞きし、大変参考になった。規則の整

備が必要だが、場合によってはこうした運営方法を考えるべきだと思う。午後からの全体会では、私は第3分科会に参加したが、県からの行政説明では、新教育委員会制度における首長との連携について、新教育委員会制度の説明や総合教育会議の説明などが続き、今更ながらという感を持った。県下の教育長と教育委員が一堂に会しているのであるから、今一番伝えたいこと、教育長や教育委員が一番知りたいと、思っていることは何か、もう少し考えてこの研修会を実施してほしいと感じた。

#### ○10月27日 第39回千葉県PTAバレーボール大会について

成田市のPTAバレーボール大会では準優勝だった公津の杜小学校チームが、印旛地区の大会で優勝し、県大会に駒を進めることになったので、市の代表チームを応援するため、本日午前中、大会会場に向かい、1セット目だけであったが、応援してきた。相手は、大網白里市の大網小学校。選手の中には実業団チームで活躍していた選手が1人おり、強烈なスパイクやサーブを打ち、公津の杜小チームを苦しめていたが、随所に好プレーが続出し見ごたえのあるゲームが展開された。残念ながら、第1セットは取られはしたものの、1点を争う好ゲームだった。第2セット以降の展開がどうなったか、気になっていたが、つい先ほど、セットカウント2対1で敗れてしまったとの報告を受けた。しかし、参加されていた選手の皆さん、そして応援に駆け付けてくれた方、皆いい顔でとても素晴らしい雰囲気であった。来年度も是非挑戦して欲しいと思った。以上、報告とさせていただきます。

#### 《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：10月8日のスポーツフェスティバルは天候が不安定な中での開催となりましたが、適切な判断と運営により、大きな問題もなく終えることができました。これには主催者の組織としての底力を感じたところです。なお、これはいつも思うところですが、綱引きにおいて大人と子どもが対戦する場面では、力の差が明白であり、やる前から結果が分かりますし、危険すら感じる場合があります。したがって、綱引きについては、子どもはエントリーさせないとか、子どもだけの対戦としてはいかがでしょうか。綱引きは、真剣な競技として行っていただいた方がいいのではないかと感じております。

また、10月24日の教育長・教育委員研修では全体会の中で、教育委員は単に住民の代表ではなく、責任ある立場なのだという話をお聞きしまして、改めて身の引き締まる思いがいたしました。また、分科会におきましては会場の最前列に座ろうとい

う福田委員の姿勢に触発され、積極的な意見発表をさせていただきました。

津富浦小学校の指導室訪問において、どの学級も落ち着いた授業展開がなされるなど、学校としての組織的な取組が感じられたという教育長のお話がありましたが、これは地元としてはありがたいことです。若い先生の配置をはじめ人事面でもご配慮いただいたお蔭だと考えております。私も10月5日に地域の高齢者の方々ととのグランドゴルフ大会で学校を訪問し、それを感じました。児童がテキパキと大会運営に携わり、その後に参加した高齢者の方一人一人に手紙をもらったのですが、その手紙は内容も文字もきちんとしていて、とても感心いたしました。

福田委員：10月3日のスクールコンサートですが、毎年観させていただいておりますが、今年のオーケストラはとてもよかったですと思います。楽器の紹介も丁寧で、試しの演奏でも子どもたちに受ける選曲であり、また、司会者の方も慣れていて、教育のためのプログラムとして決まっているようで、演奏も非常に楽しいものでした。できれば、来年度も今回のオーケストラにお願いしたいと感じました。

10月8日のスポーツフェスティバルは残念ながら雨となりましたが、今回は予報で雨だと分かっていたのですから、雨の日用のプログラムを考えておいても良かったのではないのでしょうか。その場合には開会式を短めにして、参加者の方々の競技を優先していただきたいと思います。10月15日は中台小学校の運動会を参観しました。各学年1クラスで人数も少ないため、徒競走でも5レース程度で終わってしましますが、保護者の方々も協力的で、進行もスムーズでした。先生方も余裕があるようで笑顔が多かったのがとても印象的でした。児童数は少ないなりにいい学校になっていると思います。また今月、新山小学校に伺う機会があり、校長先生とお話をした後に、以前話題になったトイレが改修されたということでしたので見せていただいたのですが、きれいなピンク色のトイレに木目調の壁、飾り棚、外から個室も見えなくなっており、とても良くなっていました。くもりガラスについても対応の方をよろしく願います。

高木委員：スポーツフェスティバルですが、今回は競技にも参加させていただいたので、雨はあまり気になりませんでした。8の字跳びは練習を積んでいったのでできなくて残念でした。また、今回、8の字跳びを行わずに綱引きと玉入れの2種目の結果で総合優勝を決定したわけですが、これはあらかじめ規定されていたことなのではないでしょうか。2



つの種目だけであれば、それぞれで順位が決まっているので総合優勝を決める必要があったのかとも思いました。また、体育館も使えるようになっていたのなら、大きな行事で人が多く大変だと思いますが、今後、ニュースポーツの体験等、例えば先日リオデジャネイロ・パラリンピックで話題になったボッチャ等に触れられるようなアクティビティを用意してはどうでしょうか。

10月22日には文化庁の文化芸術による子どもの育成事業のワークショップに参加いたしました。これは子どものコミュニケーション能力向上を目的としたもので、講師の大瀬さんという方が子ども達と表現遊びをしておりましたが、プロの技術を感じました、子ども達は、はじめから引き込まれ、心を開いて打ち解けて楽しんでいました。その姿を見て、やはり子ども達は素直でいいものだと思います。また、その会場が豊住小学校でしたが、先月の定例会において「豊住ふれあい健康館」の設置条例の提案がありましたので、帰りに学校の前の坂を見たのですが、地域コミュニティ醸成の場として位置付けるという説明に疑問を感じました。地域の方々が、徒歩やシルバーカーであの坂を上れるのでしょうか。地域のコミュニティの場ということであれば、行きやすいということが非常に重要になると思いますので、どんなに立派な施設ができて、そこに行きやすくなければ活用がなされないのではないかと思います。また、別件ですが、豊住小学校と一緒にいったNPO法人子どもプラザ成田の理事長から、スカイタウンホールは付帯設備の利用料金が高いという話がありました。国際文化会館やもりんぴあよりも高いので使いにくいとのことでしたが、市民の方々の利用状況はいかがでしょうか。わかれば後で教えていただきたいと思います。

10月24日の教育長・教育委員研修では「学力・学習状況調査を活用した学力向上について」をテーマとした第2分科会に参加しまして、佐倉市と山武市の事例発表を聞かせていただきました。なかでも佐倉市の発表に興味を持ちました。佐倉市教育センターの取り組みですが、学力・学習状況調査の結果を非常によく分析し、学校へ提供できるようにしていること、また、小学校1年生から中学3年生までやっている佐倉市独自の学力調査の結果を経年でデータ化しているということでした。成田市では、中学校3年生はやっていないと思いますがなぜやらないのでしょうか、また毎年のデータはいただいておりますが、経年データは出せるのでしょうか。こちら、後で教えていただきたいと思います。

生涯学習課木川副参事：文化芸術センターの付帯設備の利用料金ですが、基本的には文化会館

と同等となっております。ただし、文化会館に比べて舞台の面積が狭いことから、ものによっては半額以下というものもございます。したがって、文化芸術センターだけが特別高いということはないと思います。

高木委員：他の施設ではセットで借りることができて、料金が安くなっているという話でした。

生涯学習課木川副参事：照明設備のセットのことではないかと思いますが、国際文化会館ではセット1式45台で10,800円、文化芸術センターでは12台で6,780円です。規模が違いますので価格は違いますが、それぞれのライトの単体では同様の価格となっておりますので、もしかするとオプションの数の違い等ではないかと思います。

中條教育指導課長：2件のご質問をいただきました。まず、市独自の学力調査において中学校3年生は行っていないという件ですが、本市では小学校1年生から中学校2年生において、例年1月下旬に学力調査を実施しております。これは、調査結果を分析して次年度の指導に活かすという観点で行っておりますので、卒業を控えた中学校3年生は行っておりません。また、経年データについてですが、学力調査業務委託についてはプロポーザル方式による業者選定を行っておりますが、本年度も昨年度、一昨年度と同じ業者に決定したことから、ある児童生徒の3年間の経年変化のデータが取れるようになりました。子ども達にとっても、いい分析ができるような学力テストになっています。また、佐倉市の事例のお話がありましたが、本市35校の学力状況調査の結果は、各校の実態が様々となっております。先日市全体の結果についての報告はさせていただきますでしたが、現在、様々な観点から分析を加えた見やすい学校配付用のリーフレットを教育センターで作成しておりますので、完成しましたらご報告させていただきますと思います。

小川委員：昨日、東日本大震災の津波で大勢の子ども達が犠牲になった石巻市立大川小学校の訴訟で判決が出ました。これは、学校側の過失を一部認め、市と県に損害賠償を命じるという厳しい判決でした。これを見て子ども達の命に関わる判断というものが、これからは本当に厳しく求められるのだと改めて感じました。そういう意味からも、今後校長会や教頭会の中で、是非、この判決について話題として、これからのことを考えていただきたいと思いました。成田市では津波はないかもしれませんが、土砂崩れ

等の災害の危険に子ども達がさらされる機会があるかもしれません。そうした場合に学校がどこまで責任を負わなければならないのかについて、考えるいい機会になるのではないのでしょうか。

また、10月15日の花火大会ですが、天候にも恵まれ素晴らしいものでした。聞くところによると関東一の評価を得ているということで、また、14万人が観覧したという話もあります。こうした中、実況放送が有料で観覧している方々だけに向けて行われており、地域の方々には聞こえないようになっているようです。できれば、地域の方々にも配慮いただければと思いました。

## 5. 議 事

### (1) 議 案

#### 議案第1号 平成28年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について

鬼澤教育総務課長：

本案は、先月の教育委員会会議定例会に提案し、承認をいただいた成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者に、新たに追加提案をさせていただくものです。

今回、追加提案させていただくのは、「功績彰」のみで、「功労彰」及び「奨励賞」に変更はありませんが、前回の一覧表に追加するかたちで議案資料を作成させていただいております。

岩手県において10月1日から11日に開催されました「第71回国民体育大会」及び、その後10月22日から24日に開催されました「第16回全国障害者スポーツ大会」等の全国レベルの大会に出場いたしました、本市関係の方々が優秀な成績をあげられ、成田市教育委員会教育功労者表彰規則第4条に規定する功績彰に該当するため、追加提案をさせていただくものです。今回、入賞した方々は、国民体育大会で6名、障害者スポーツ大会で3名、日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会で4名おりますが、その中には、すでに全国高校総体等の結果により、前回の議案において承認をいただいている方もおりますので、追加提案させていただくのは8名と1団体となります。資料の4ページをご覧ください。12番、石川英沙さんから、次ページ19番、遠藤泰廣さんまでの8名、そして20番、千葉県立下総高等学校自動車部につきましては、「本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2016第36回全国大会」の高校生クラスに2チームが出場し、優勝、準優勝いたしましたので、今回追加提案させていただきます。

なお、2ページの6番、加世田梨花さんは国民体育大会で、3ページ7番、村上夏美さんは国民体育大会及び日本ユース陸上競技選手権大会でも入賞されたことから、事績欄にその成績を追記させていただきました。字体がゴシック体になっているものが追記分です。

また、3ページ9番、吉岡秀明さんと10番、小川奈那さんも、本年度の第16回全国障害者スポーツ大会の成績を追記させていただいております。

例年、全国障害者スポーツ大会につきましては、国民体育大会の後に開催されることから、当該年度の表彰式の準備手続きに間に合わず、翌年度表彰とさせていただく場合が多く、実際に本年度も昨年度の第15回大会の事績をもとにして、表彰の推薦を受け、前回の議案により承認を受けておりますが、本年度の大会については本日の教育委員会会議前に終了し、大会結果が把握できましたので、本年度表彰の対象とさせていただきました。

以上、平成28年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）についての説明とさせていただきます。

議 長：ただ今の提案に関し、ご質問等はございますか。

議 長：よろしいでしょうか。

特にないようですので、議案第1号「平成28年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第2号から議案第4号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。また、関連のある議案であることから3議案を一括審議とする。

《これより非公開》

議案第2号 指定管理者の指定について（成田市印東体育館）

議案第3号 指定管理者の指定について（成田市十余三パークゴルフ場）

議案第4号 指定管理者の指定について（成田市久住パークゴルフ場）

大矢生涯スポーツ課長：

議案第2号、指定管理者の指定について（成田市印東体育館）、議案第3号、指定管理者の指定について（成田市十余三パークゴルフ場）、議案第4号、指定管理者の指定について（成田市久住パークゴルフ場）までの3議案につきまして、一括してご説明させていただきます。

本3議案における施設については、平成25年4月1日から4年間、地元の各種団体を指定管理者としてまいりましたが、指定管理期間が満了することに伴いまして、引き続き、平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間の指定管理者を定めるものでございます。

提案いたしました候補者の選定にあたりましては、成田市公の施設に係る指定管理者の指定の手続き等に関する条例第5条第1項第3号の候補者の選定の特例を適用し、公募は行わず、同条例に規定された手続きに基づきまして、生涯学習部長を部会長とする7名で構成された生涯学習施設専門部会において、募集要項にあらかじめ定めた審査項目に従い、申請団体から提出された申請書類及び口頭試問により審査を実施しました。

最初に議案第2号の議案資料をご覧ください。成田市印東体育館の指定管理者候補は、成田市北須賀1655番地2「明日を拓く北船の会」です。代表者は同会の山崎守会長で、北須賀、船形両区民で組織された団体であり、管理実績が良好なこと、施設の利用率が非常に高く、経費節減のため電力消費量の削減にも力を入れていること、地域振興にも寄与している信頼できる団体であること、スポーツ活動の交流の場としての環境づくりを目指していることから、指定管理者として適当であるとの判断を得たため、指定管理者の候補者として選定いたしました。

続きまして、議案第3号の議案資料をご覧ください。成田市十余三パークゴルフ場の指定管理者候補は、成田市十余三64番地1「エアポートパークゴルフ管理組合」です。代表者は、同組合の峰岸哲也理事長で、十余三地区住民により設置した管理団体であり、パークゴルフ大会を開催し、利用者層の拡大に努めていること、地域との連携により高齢者をパークゴルフ場へ招待したり、また、子ども大会の開催を計画し、今後の利用者の拡大を図る事業についても取り組み、利用者のサービス向上を目指していることから、指定管理者として適当であるとの判断を得たため、指定管理者の候補者として選定いたしました。

続きまして、議案第4号の議案資料をご覧ください。成田市久住パークゴルフ場の指定管理者候補は、成田市土室818番地2「土室パークゴルフ管理組合」です。代表者は、同組合の小倉孝化理事長で、土室地区住民により設置された管理団体であり、創意工夫して施設利用者が年々増加していること、施設周辺環境整備事業として、地域住民の協力と参加による除草や害虫駆除を行っていること、四季に合わせた時間帯で開場しており、利用時間について、利用者の統計をとり、今後も利用者目線での運営を目指していることから、指定管理者として適当

であるとの判断を得たため、指定管理者の候補者として選定いたしました。専門部会では、この結果を成田市「公の施設指定管理者選定委員会」に報告し、指定管理者の候補者として適当であるとの判断を得たため、地方自治法第244条の2第6項の規定によりまして、12月定例市議会に提案し、指定管理者の指定をしようとするものです。

《議案第2号、議案第3号、議案第4号に対する質疑》

小川委員：印東体育館の利用率が高いということですが、どの程度でしょうか。また、十余三パークゴルフ場は設置当初、利用者数が少なく話題となったと思いますが、現状ではいかがでしょうか。久住パークゴルフ場も含めまして、利用状況について教えていただきたいと思います。

大矢生涯スポーツ課長：まず、印東体育館の施設はバスケットコート1面と会議室がありますが、ほぼ全時間帯において予約で埋まっている状況です。利用者の実績につきましては、平成27年度は体育館と会議室で年間約16,000人、平成26年度は約14,000人でした。印東体育館につきましては、昨年度の約16,000人が限度ではないかと考えております。次に、パークゴルフ場ですが、十余三パークゴルフ場は9ホールで平成20年度に開設し、現在では年間6,800人程度の利用者がございます。久住パークゴルフ場は18ホールで平成23年度途中の開設ですが、平成24年度の利用者につきましては年間10,000人程度でしたが、平成27年度は15,000人程度の利用者となっております。施設規模が違いますが、市民あるいは市外の方々の利用で、順調かつ、安定的に利用率が伸びているものと考えております。

高木委員：「明日を拓く北船の会」というのはどういった団体で、どういう活動をしているのでしょうか。

大矢生涯スポーツ課長：北須賀、船形両区民の方々に構成された団体であり、印東体育館の管理、地域振興を行っている歴史のある団体です。

議長：他にございませんか。よろしいでしょうか。

特にないようですので、まず、議案第2号「指定管理者の指定について（成田市印

東体育館)」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議 長：次に、議案第3号「指定管理者の指定について（成田市十余三パークゴルフ場）」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議 長：続きまして、議案第4号「指定管理者の指定について（成田市久住パークゴルフ場）」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

《非公開を解く》

## （2）報告事項

### 報告第1号 学校医の委嘱についての専決処分報告について

中條教育指導課長：

学校医等の委嘱につきましては、学校保健安全法第23条並びに成田市立小学校及び中学校管理規則第5条により、平成28年2月の教育委員会会議においてご了承いただいたところであります。これまで、大須賀小学校学校医に大栄病院、宮本幹夫医師を委嘱しておりましたが、大栄病院をご退職することになり、学校医の執務を遂行することが困難となったことから、同じく大栄病院の吉田博美医師に同校学校医を委嘱いたしました。宮本幹夫医師が平成28年9月30日にご退任されるため、後任の吉田博美医師に、平成28年10月1日から委嘱する必要があったことから専決処分としたものです。

《報告第1号に対する質疑》

特になし

### 報告第2号 久住小学校への児童ホームの増設について

篠塚学校施設課長：

久住小学校への児童ホームの増設についてご報告いたします。資料の1ページをご覧くださいと存じます。児童ホームは、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、放課後及び土曜日、夏休みなどの学校休業日に、家庭に代わる遊びや生活の場を提供することにより、その健全な育成を図る施設でございます。既存の久住児童ホームは、平成20年度に、定員50人の施設として開所いたしましたが、定員を超える待機児童への対応のため、平成27年7月からは、暫定的に、図工室を放課後等のプレイルームとして使用しております。このため、久住第二児童ホームを増設することとし、平成29年4月からの供用開始を予定しております。資料の裏面をご覧くださいと存じます。設置場所につきましては、校舎棟の南側に既存の児童ホームがありまして、その隣に久住第二児童ホームを設置いたします。

なお、本施設の供用開始後は、暫定で使用してございました図工室を学校に返却するものでございます。

#### 《報告第2号に対する質疑》

福田委員：既存の児童ホームと別棟で整備するのはなぜでしょうか。

岡田保育課長：既存の児童ホームは戸建てのため、増築とした場合に工事期間中、既存施設を一時的に閉めなければいけなくなることから、新たに建設することとしたものです。

福田委員：新館と旧館になりますが、利用者は学年ごとに区分しますか。それとも例えば兄弟がいた場合に一緒に入れるように考慮していただけるのでしょうか。

岡田保育課長：学年等で区分することはございませんので、施設間でバランスよく配分いたしますし、兄弟がいれば一緒に入れるようになります。

高木委員：以前、いじめとまではいかないかもしれませんが、児童ホームに行きたくないという児童がいたということを知りました。児童ホーム内の生活についてはすべて支援員の方にお任せしているのでしょうか。また、学校との連携はとられているのでしょうか。

岡田保育課長：支援員だけにお任せしているわけではなく、学校側とも連携を取り、情報交換



をしながら指導にあたっております。また、本年度から巡回指導員という支援員を指導する立場の職員を置き、順次児童ホームを回って、指導の仕方や問題の有無等の確認を行っております。

高木委員：生活内容のプログラムを作成するのは支援員の方でしょうか。

岡田保育課長：そうです。支援員が作っています。

### 報告第3号 2016成田POPラン大会の開催について

大矢生涯スポーツ課長：

2016成田POPラン大会について報告いたします。本年は、11月13日の日曜日に、ハーフマラソン、10km、3kmの3部門で中台運動公園陸上競技場をスタート、フィニッシュ地点として開催いたします。資料2ページをご覧ください。今大会の申込者数です。カッコ内の数字は前回比を表しております。申込者数につきましては、3種目合計で4,426名となっておりますが、今大会は定員を下回る結果となっております。また、参加申込最高齢者は、男性は87歳で9年連続、今大会は10kmに、女性は77歳で5年連続、3kmにエントリーしていただいております。

資料3ページをご覧ください。地域別参加者の内訳は、全体参加者の内、成田市民の部の参加者が約3割占めております。次に4ページをご覧ください。ゲストランナーとして、本大会も「ユニバーサルエンターテインメント」から、2名の選手をお招きし、大会に花を添えていただきます。なお、米谷選手は千葉県出身です。大会役員、競技役員につきましては、大会会長は小泉市長、副会長に市議会議長、教育長をはじめ4名の方々、顧問、参与で17名の方々となっております。教育委員の皆様におかれましては、大会顧問として、開会式へのご臨席、各部門入賞者への表彰授与者として、ご協力をお願い申し上げます。また、今大会は、競技役員約770名の方々大会運営に携わっていただきます。参加者数が減ったとしても、競技役員は変わらず、選手の安全管理のため大会運営に努めてまいります。続きまして6ページですが、大会当日の日程につきましては、9時から開会式を開催し、10時にスタート、その後、随時、表彰を行い、午後1時頃に競技を終了する予定で進めてまいりたいと考えております。

## 《報告第3号に対する質疑》

福田委員：表彰に遠来賞がありますが、資料の遠来者には北海道6名、宮城県1名、計7名の記載がありますが、この方々全員が対象になりますか。

大矢生涯スポーツ課長：地図上で一番距離の遠い方1名のみが表彰の対象になりますので、北海道の方になります。

小川委員：ハーフマラソンの部では昨年より2割以上減っているようですが、10kmの部ではあまり変わっていません。また、3kmの部では1割5分ほど減っています。この状況をどのように、考えておりますか。

大矢生涯スポーツ課長：記録測定を委託している会社にも尋ねましたが、今年は10月30日に、茨城県で参加者数13,000人規模の第一回水戸黄門漫遊マラソンが開催されますので、多くの参加者がそちらに流れたのではないかとということでした。また、千葉県内でも、POPラン大会の1週間後には最近銚子市で開催されるようになったハーフマラソン大会でも1,000人規模の減少がおきている大会もございます。さらに10月23日に開催されたアクアラインマラソン等、こうした大会に影響を受けて、ハーフマラソンの部の参加者数が減少したと推測しております。なお、3kmの部の減少理由につきましては、定かではございません。

関川教育長：はっきりとした原因は分かりませんが、POPラン大会の実施日前後に近隣で大きな大会があることが理由ではないかと推測しています。

## 報告第4号 世界少年野球大会千葉大会フォローアップ事業の開催について

大矢生涯スポーツ課長：

世界少年野球大会千葉大会フォローアップ事業の開催について報告いたします。

本事業は、昨年開催しました「第25回世界少年野球大会千葉大会」のフォローアップ事業として財団法人世界少年野球推進財団が主催者となり、11月26日土曜日、と27日日曜日の2日間にわたって開催されます。26日は元プロ野球選手4名、読売巨

人軍OBの川口、緒方、篠塚選手、千葉ロッテマリーンズOBの里崎選手を講師に招き、中学生を対象とした野球教室をナスパ・スタジアムにて、また、夕方、午後6時30分からは、野球教室で講師を務めた4名をゲストに招いて成田市文化芸術センタースカイタウンホールにてトークショーを開催します。翌27日には26日同様に講師4名による小学生を対象とした野球教室を、大栄運動場では野球体験、ニュースポーツ体験等を実施するベースボールフェスティバルを開催するとともに、大栄B&G海洋センター武道場では、「子供の食事や栄養について」、野球を題材としての栄養学教室を開催いたします。

教育委員の皆さまにおかれましても、お時間がございましたら、トークショーや野球教室、ベースボールフェスティバル会場に足をお運びいただければと思います。

トークショー及び栄養学教室につきましては、申込制となっておりますので生涯スポーツ課まで、ご連絡いただければ幸いです。

関川教育長：お手元の配付資料におきましては、事業概要の野球教室の講師の残り1名は未定となっておりますが、ただ今の説明のとおり、元巨人軍の篠塚選手ということになりました。

《報告第4号に対する質疑》

特になし

## 6. その他

その他の報告事項、「生徒指導上の問題について」については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開で報告を受ける。

《これより非公開》

その他 「生徒指導上の問題について」

《非公開を解く》

その他 「本城小学校学校給食共同調理場整備にあたり、過大受給となった国の交付金の返還について」

後藤学校給食センター所長：お手元に新聞記事のコピーを配付させていただいておりますが、平成28年10月19日付けの千葉日報等において、学校給食施設の整備費に充てる国の交付金について、全国で19市町村が算定方法を誤り、2011年から2014年度に合計で約4億3,000万円、そのうち県内では4市4施設で合計約1億1,000万円を、会計検査院の調べで過大受給していたことが分かったという報道がありました。本市では、本城小学校学校給食共同調理場が該当し、約3,700万円の過大受給がございました。

本市での過大受給の理由については、児童生徒数を基に、算定対象となる基準面積を決めるべきところ、交付金の算定において、これを超えている面積も含めた施設全体の面積等により算出したため、これを誤りと指摘されたものです。この報道の中で、文部科学省は「自治体には分かりやすく説明し、円滑に執行できるように工夫したい」とコメントを発しております。今後、過大受給となった交付金の国への返還につきましては、補正予算において対応させていただきたいと考えております。

《質疑》

小川委員：算定方法の誤りについて、もう一度教えてください。

後藤学校給食センター所長：給食を配食する児童生徒数を基に、補助対象となる基準面積を決めるべきところ、その面積を使わずに建築した面積全体を交付金の算定に使用したということです。

関川教育長：児童生徒数を基にした基準面積を使わずに、建築した面積すべてを対象としてしまったということです。千葉県とやり取りをしながら手続きを行ってきたわけですが、結果的にそれが誤りであったとの指摘を受けたものです。

小川委員：一般的には、児童生徒数を基に決めるのが普通ではないのでしょうか。

後藤学校給食センター所長：そうしたケースが多いのですが、国の補助金マニュアルの内容にわかりにくい部分があり、全国で同様の事例が多数発生したものです。

小川委員：もし児童生徒数を基にした面積が適用されると小規模な施設しかできないことになりませんか。

後藤学校給食センター所長：施設規模は問いませんが、補助対象の限度額が児童生徒数を基にした面積を基準とした金額しか交付されないということになります

### その他 「国際こども絵画交流展2016について」

生涯学習課木川副参事：本年5月の教育委員会会議定例会でご報告いたしました「国際こども絵画交流展2016」の出品状況等についてご説明させていただきます。

今回のテーマは「友情-Friendship-」とし、市内の学校より671点、海外から21か国40都市791点の出品がありました。9月24日に審査を終了し、別添一覧の特別賞20点、そして、フレンドシップ賞40点、海外からのフレンドシップ賞30点を選定いたしました。お手元の資料には、特別賞の一覧と作品を添付しましたのでご覧ください。例年同様、特別賞受賞者には複製したものをお返ししており、本物は、海外の友好都市との交流を図るため、公共施設等で展示していただきたいと思っております。本年度の展示は、11月19日から11月30日の間、成田市文化芸術センタースカイタウンギャラリーを会場として開催し、その後、市役所1階市民ロビーで12月2日から12月15日まで、イオンタウン成田富里では12月17日から12月27日まで巡回展示を行います。

なお、教育委員の皆様には、表彰式を11月20日、日曜日に行う予定ですので、ご臨席いただきますようよろしくお願いいたします。

《質疑》

特になし

### その他 「第34回成田市公民館まつりについて」

神崎公民館長：委員の皆様には、開催のご案内をさせていただいておりますが、市内の各公民館で活動するサークル、団体の成果発表の場といたしまして、第34回成田市公民館まつりを中央公民館におきまして明日10時から、30日、日曜日まで開催いたします。前回は、参加団体数216団体、来場者数延べ7,213人でしたが、今回も206団体の参加となり、来場者数につきましても前回は劣らぬ人数が見込まれているところでございます。講堂では各サークルのダンスや踊り、コーラスや演奏などの発表を、また、各部屋では、体操や着付けなどの体験教室も開催されますので、委員の皆様におかれましては、オープニングセレモニーに引き続きお楽しみいただければと存じます。

《質疑》

福田委員：天気が雨予報となっていると思いますが、雨天時、オープニングセレモニーはどこで開催しますか。

神崎公民館長：雨天時のオープニングセレモニーは講堂で行わせていただきます。

## 7. 教育長閉会宣言